

地元のみなさま、日頃よりわれわれの活動にご理解とご支援を賜りまして有難うございます。

心より感謝申し上げます。

○市議会だより ～初挑戦～

11月6日に投開票が行われ誕生した富山維新の会初の地方議員として金井毅俊（59歳）と木下章広（34歳）が富山市議会における12月定例会に臨みました。

金井毅俊

- ・11月 「建設委員会」、「議会報編集委員会」、「まちづくりと公共交通対策特別委員会」に所属。

「議会報編集委員会」：12月定例会分より、所属会派・議員名の公開。

3月定例会分より議案採決賛否の履歴を会派ごとに掲載予定。議会の透明性が促進。

- ・12月1日 「議員提出議案第10号」に対する議案質疑

「議員報酬増額」に関しては、富山市特別職報酬等審議会への2回の諮問を経て、わずか2か月余りの本年6月15日に本会議の中で条例改正案が可決。

そして、この12月定例会冒頭でその廃案提示。いずれにおいても審議・議論が不十分なままでの手続きについてその妥当性を問う。

五本幸正氏（自由民主党）：政務活動費の不正受給の問題で議員が大量に辞職したこと。市民に理解が得られなかったことの二つの理由により本議案を提案した旨の回答。それに対し、政務活動費の不正受給の問題と議員報酬の問題が直接関係ないことを確認。

「議員提出議案第10号」に対する反対討論

「議員報酬増額」の廃案についてのこの議論について、反対討論を行う。拙速な議論のもと増額決定された議案を単純に廃案提示することで済む問題ではないこと。すなわち、①丁寧な審議・議論の不足 ②政治不信の助長 ③本質的議論の欠如と（審議・議論の）機会喪失への懸念という本質的問題への対応が一切なされないことを疑問視し反対とする。

- ・12月12日 一般質問：今後の議員報酬のあり方とその判断基準について問い、再度、議員報酬がどうあるべきかをきちんと議論し、丁寧な手続きを踏むべきであることを要求。そして「身を切る改革」の姿勢を毅然と述べ、議会改革の必要性を主張。

- ・12月16日 「議案第188号」市長及び副市長等の期末手当の増額、「議案第199号」市議会議員の期末手当の増額に関する議案について反対。議員報酬のあり方への議論も定まらない状況で、この提案はあり得ないと判断。

木下章広

- ・11月 「厚生委員会」、「議会改革検討調査会」、「まち・ひと・しごと創生対策特別委員会」に所属。

「議会改革検討調査会」：本会議のケーブルテレビ放送導入の早期検討への着手（議会の見える化の推進）。祝電・弔電の廃止などが決定。本会議における一般質問の年間制限時間を伸ばすことについては継続審議。

政務活動費のあり方検討会・運用指針策定作業部会：問題となった政務活動費については、厳格な基準作りを行っており3月までに新運用指針が決定される予定。私たちは「後払い制」を不正抑止の有力手段として提案しましたが、現時点で導入には至らず。引き続き政務活動費のあり方を検討。

- ・12月13日 一般質問：政務活動費の問題を踏まえ、公金の管理の在り方やコンプライアンス体制の強化への考えを問う。富山市議会の不正体質を改めることが市民の皆様からの大きな期待。政務活動費の問題は、早急に一定の解決策が確立されるべき課題であると強く認識。



～3人の「たたかい」が始まりました～

○選挙戦を終えて

市議会議員 金井毅俊 (会派「日本維新の会」代表)

まず体重が8kgぐらい落ちました。身を切る改革を全面に打ち出し、議員改革、議会改革、そして政務活動費のゼロベースからの見直しを朝から晩まで訴え続けました。

市議会議員 木下章広

沢山の方に支えていただかなければ、戦い抜くことはできなかつたと痛感しています。

また、選挙戦を通じて、今までの暮らしではお会いできなかった様々な世代の市民の皆様にお会いし、富山市の未来に希望を感じています。

砂田喜代正 (市議補選立候補者)

立候補の決断時期が告示の10日前と大変遅く、準備期間として出遅れ感があり、支持者に浸透しきれず良い結果を出すことができませんでした。しかし、短期間でしたが、私の思いを理解していただいた多くの支持者がいたことに感謝です。選挙直後から4月の本選に改めて未来の議会を目指していく決心をしました。

○市議会を終えて

金井毅俊

今まで経験したことがない独特の雰囲気があり、自分を見失いそうになりましたが、事務所スタッフの協力のもと、選挙戦で訴え続けた議員報酬の削減、政務活動費の見直しについて、新人では我党だけ最後まで改革を強く訴えました。

木下章広

一般質問の文案を考えることに苦勞しました。

最終的に選挙で訴えてきた政務活動費の改革へのおもいを練りこんで表現することができたと思います。

議場に入り自分の議席に座るとピリッとした緊張感を覚えます。

砂田喜代正

39人中13人が新人という異例の本議会で内容的には政務活動費関係が多かったり、その他の質問についても、あまり深いものではなかったのではなかろうかと率直に思います。

不正問題への対策を少しでも早く実行し、本来の議会としての機能を回復し、充実したものにしていかなければならないと強く感じました。

○来年の抱負

金井毅俊

来年は酉年です。私の干支でもあります。

良いものはなんでも取り入れ飛躍の年を皆様と歩んでいきたいです

木下章広

富山市政についてより広い視点を持てるように学びながら議会の各種委員会などにおいて市政発展につながる発言をしていきたいと考えています。

砂田喜代正

「誰のための政治なのか」という原点を忘れず市民目線で市民本位の政治を実行していく」という私の政治信念をいかに多くの人々に訴えていくか、それが4月の本選で結果を出す唯一の道。時間を無駄にせず精一杯活動していきます。



発行元

〒930-0037

「富山維新の会」 富山市音羽町2-5-14 藤井第二ビル

Tel. 076-421-5523 Fax. 076-421-5524

みなさんのお声、

ご意見を伺いにまいります。

どうぞいろいろなお考えをおきかせ下さい。

ご連絡をお待ちしています。